

Happy-Hamakan-News (HHN)

浜医看学発 第3巻 第3号

2017年2月号

浜田医療センター附属看護学校

[http://www](http://www.hamakan-nh.jp/)

教育主事あいさつ・・・1P

スポーツ大会・・・5～6P

高砂ボランティア・・・13P

校章となでしこと家持・・・2P

模擬患者演習・・・7～8P

第106回国家試験に向けて・・・14P

学校祭・・・3～4P

ナーシングセレモニー・・・9～12P



国家試験まであとわずか、いつも応援ありがとうございます。

3年生全員合格目指してがんばります!!!

独立行政法人国立病院機構
浜田医療センター附属看護学校
〒697-8512 島根県浜田市浅井町 777-12
TEL0855-28-7788
mail : kanri-t@hamakan.nh.jp
<http://www.hamakan-nh.jp/>

発行責任者 石黒眞吾
編集責任者 高下智香子
編集 田儀千代美、隈部直子、小田川良子、畑中美保、
崎本美子、山岡富美香、三家本八千代、
岩成美樹、松野由香、金山和正



～ふたたび浜田に赴任して思うこと～

教育主事 高下智香子



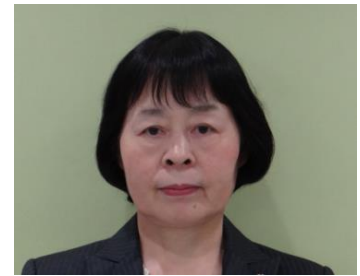
昨年7月1日付で、福田明美教育主事の後任で岡山医療センター附属岡山看護助産学校より、異動してまいりました高下智香子（たかした ちかこ）と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。私は平成12年から平成22年までの10年間、当校に教員として勤務していました。その後、呉、岡山の看護学校を経て7年ぶり2度目の赴任となります。浜田には長い期間、教員として勤務していましたので、私にとっては大変慣れ親しんだ学校でもあります。7年ぶりとはいえ、講師や実習施設には以前から学校運営にご協力いただいている顔なじみの先生方や実習指導者も多く、どこかほっとした安心感が持てるとともに、長期にわたり学校を支えて下さっていることに心強さを感じています。さて、ふたたび浜田に赴任して半年が経ちました。少しずつ以前在籍していた時の感覚を取り戻しつつあるこの頃ですが、改めて当校の良さを感じたのでお伝えしたいと思います。

当校は1学年定員40名、全校合わせても120名の学校です。少数制の為、学生個々の成長過程がよく見え、個にあった教育ができる恵まれた環境にあるということです。教員は3年間を通して講義・実習・教科外活動など様々な教育場面で学生にかかわることができ、在籍している学生全員の成長過程がとても良く理解できます。また、教員は皆熱心で学生を育てていこうとする意識が高くチームワークがとれていると感じます。学生個々にあった指導を行うために学校では教員間でよく情報交換がされています。前回指導したことが次につながられているか、あるいは、その指導でよかったのか、こういった場合は教員の指導の振り返りにもなります。教員は学生に合った一貫した教育ができるよう連携をとり、情報共有しながら日々教育にあたっています。

当校は今年度64期生の入学を迎えました。卒業生はこれまでに2,052人を数える歴史ある看護学校です。母体病院である浜田医療センターにも卒業生が立派に成長し、看護師として活躍しています。私が教員時代に卒業までかかわった学生たちも、看護師7年目以上のベテラン看護師に成長しています。卒業生が看護学の講義を担当してくれている分野もあり、看護実践をふまえた視点から講義をしてくれています。卒業生のその後の成長に触れる機会に恵まれたことは大変喜ばしいことです。臨地実習でも実習指導の担当になった卒業生が学生指導に関わってくれています。“育てられた人が今度は後輩を育てていく”指導者に成長した卒業生は同窓生という意識が高く、熱心に後輩指導にあたってくれています。また、学生指導について率直な意見交換ができるのも卒業生だからこそできることなのだと思います。こういった環境は一日にして創られたものではなく長い歴史の中で培われた風土であり、地域の多くの人々に支えられながら当校が今あることの重みを感じています。

また、浜田の地は人の温かさが感じられる恵まれた環境です。そこでふたたび看護教育に携わる機会を頂いたことに感謝しています。浜田医療センター附属看護学校の良さが継続し、学習環境がさらに充実するよう努力していきたいと思っております。今後とも、学生が将来の看護を担う存在として成長していくことができまよう、ご協力とご支援よろしくお願ひ申し上げます。





第 16 期生 安井良江

この度、母校で校章の由来等を講義する機会を得た。改めて校章を手に取り、それを形どる「なでしこ」について考えた。なでしこと聞くと大伴家持を連想する。私は現在、認知症予防と社会とのつながりを持つを目的に、万葉集の学習を続けている。万葉集の編纂者の一人とされている大伴家持はなでしこの花を愛した歌人といわれ、集中 12 首のなでしこの歌を詠んでいる。なでしこは「撫子」とも表し、その清純で可愛い姿が「愛すべき子供を撫でる心地がする」ことからその名が付いたとも言われている。か弱そうに見えてたくましい生命力を持つ姿がやがて、日本女性を代表する言葉となる。かの女子サッカー日本代表、なでしこジャパンと呼ばれている。この日本女性の美的本質はいつごろからなでしこに例えられるようになったのだろう。

大伴家は武門の家柄であり、その貴公子である家持は多くの女性達と歌を贈りあった。天平 4 年春 15 歳の家持は後に正妻となる 12 歳の坂上(さかのうへの)大嬢(おほいらつめ)に恋の歌を贈る。

我^{わが}やどに蒔^まきしなでしこいつしかも花に咲きなむなそへつつ見む
(庭に蒔いたなでしこの花が咲いたらあなたと見なして見よう)

なでしこがその花にもが朝^{あさ}な朝^{あさ}な手に取り持ちて恋ひぬ日なけむ
(あなたがなでしこの花であってほしい、そうしたら毎朝手に取り持ちていとおもしろ)



なでしこの花

朝も昼も逢いたい大嬢(おほいらつめ)を「なでしこ」だけでなく「玉」に譬えた歌もあるほど恋する二人であったが、この後、数年の離別があった。

その間、家持が心を寄せたのは妾(おみなめ)と言われている女性である。正妻となったかもしれない人である。その女性はみどり子を産み天平 11 年若くして亡くなった。自分の生命が長くないことを知っていたのかもしれない。亡妾を悲傷して詠った歌 1 首。これは挽歌でもあり、恋歌でもある。

秋さらば見つつのへと妹が植^うゑし宿のなでしこ咲きにけるかも

(「秋になったら、花を見ながら私を偲んでくださいね」と愛しい人が植えたなでしこが咲き始めてしまった)

これもまたなでしこである。なでしこを贈る最重要女性は一人だけではなかった。可愛いなでしこと一途な青年家持のイメージが遠ざかる…。家持がなでしこの花を心から愛でていることをよく知っている女性(笠郎女(かさのいらつめ))からは、なでしこがあなた(家持)だったらいいのにと歌を贈られてもいる。しかし、家持は多くの女性の憧れであり、10 人近い女性と歌を交わしている状況から考えると、また当時の一夫一妻多妾の社会にあつては、自分が最も好きななでしこの花の歌を贈る女性が二人におさまっていることは良しとしようか。その時その時、一番大切な女性に“なでしこ”を贈ったと考える。(ことにしよう。)大嬢(おほいらつめ)を正妻に迎え、越中に単身赴任した家持は、都にいる妻を思って、自分の住む館になでしこの種を蒔いたことが詠われている。なでしこの歌は女性にだけでなく、宴席において男性にも贈られている。

1300 年前、家持の愛したなでしこは「かわらなでしこ」であったが、「大和(やまと)撫子(なでしこ)」と言われるようになったのは平安時代であり、中国からの「唐(から)撫子(なでしこ)」に対してであった。改めて今、なでしこの花を見ると楚々とした美しさの中に芯の強さを感じさせる。

校章のなでしこは、創設時日本女性の象徴と謳われているが、今や入学者は女性だけではない。人々の健康を守り豊かな生活が送れるよう支援するために科学的な知識や技術を学ぶ看護職を目指すすべての後輩学生の象徴と考える。豊かな花を咲かせて欲しい。我々現代人の持つさまざまななでしこへのイメージについて、泉下の家持はどう思っているだろうか。



校章

学校祭 2016「HAMAKAN」から幸せを はまかん



学校祭運営委員長 2年生 飯塚ももか

今年の学校祭は「HAMAKAN から幸せを」というテーマのもと、地域との繋がりを考えたり、復興支援に取り組んだり例年とは一味違う学校祭になりました。そのため例年からの変更点も沢山あり準備の段階では悩むこともありましたが、全学年気持ちを一つにして取り組むことができ、当日には来場者 2,116 名という沢山の方々来ていただくことが出来ました。また、来場者の皆さまから「楽しかったよ。」「来年もぜひ来たい。」などの言葉や笑顔で沢山の幸せを貰うことが出来ました。私たちも地域に向けて“浜看”から沢山の幸せを届けることが出来たのではないかと思います。今回は様々な人々に支えられていることを再確認することができただけでなく、学校全体の絆を確かめることもできたアメイジングな学校祭でした！



イベント 2年生 山崎美優

今年は、一階の子供の遊びスペースとなるちびっこランドと二階のオレンジとグレープフルーツのアロマを焚きながらのハンドマッサージ、講堂では神楽やダンスサークル等の演目を企画しました。毎年ハンドマッサージは大人気だったので、今年は特にたくさんの方々に体験していただきたいと思い、時間配分・方法を工夫しました。来場者の方々には、「ありがとう」「気持ち良かった」等と言葉をいただき、とてもうれしかったです。来年はもっと各演目に来場していただけるよう全学年で協力していきたいと思います。

フリーマーケット 2年生 岡本衿香

まず初めに、フリーマーケットを開催するにあたりたくさんの品物をご提供いただいた、浜田医療センターの職員の方々、学校職員、学生の皆さんに感謝したいと思います。また、実習や演習でお世話になっているシルバー人材センターの皆さま、浜っ子作業所の皆さまにお餅やクッキー等の販売をしていただきました。たくさんの方々のご協力で1308個の商品を陳列することができ、活気のある売り場を作ることができました。多くの方に買い物を楽しんでいただけたと思います。

模擬店 2年生 森口豪

今年度の模擬店では、「地域との縁、被災地との縁～九州の郷土料理を通して地域の皆さんとの縁を広げるとともに復興を支援する～」をテーマとし、九州の郷土料理を取り入れました。販売した“だご汁・高菜飯・いきなり団子・パン・ジュース”は好評であり、来場者のおかげですべて完売することができたため、被災地である九州への関心、理解を持っていただけたのではないかと思います。準備期間では、様々なアクシデントがあり何度も躓いてしまうこともありましたが、なんとか当日には間に合い販売できたことは協力していただいた周りの人達の支えがあったからだと思います。今年度の反省点、良かった点を周知し、来年度は今年よりもより良いものになっていけばと思います。

会計 2年生 白川侑奈

学校祭当日は、模擬店の食券販売を行ないました。今年度は九州に関連した商品の販売し、来場者の方へ商品についての説明や募金の呼びかけをしました。商品の説明をするときは、「どうすれば来場者に分かりやすく説明できるか」と相手に伝わりやすい表現を考えることに時間がかかりましたが、常に楽しく笑顔で呼びかけることを意識しました。この日一日で来場者の方々の沢山の笑顔を見ることができました。



物品管理 2年生 千原みと

私たち物品係は、特に準備・片づけの段階で重要な役割を担っていたと思います。学校祭で使用する物品を各係に振り分けたり、紛失がないよう物品数の把握や破損がないか確認を行う等、学校にある物品の管理を行いました。物品も新しいものを購入するのではなく、学校にある物品を活用できるよう工夫しました。今年度も来場者の方が怪我をされることもなく、物品の紛失や破損等も見られず無事に終わり本当に良かったです。

学校紹介 2年生 田中麻衣

私たちは浜看の様子を来場者に知ってもらうため、学校行事等をまとめたポスターや授業で使用するワークシートや資料、看護技術に必要な物品を展示しました。学校の紹介を地域の方にする機会というのは普段ほとんどないので、学校祭という短い時間の中でどのように情報を発信していくかと工夫点を考えることに時間を要しました。来年度は、動画を取り入れ、より伝わりやすい学校紹介のブースにしていきたいです。



宣伝 2年生 檜川恵

学校祭にたくさんの方に来ていただくために、ポスターやパンフレットを作り、地域の方に宣伝をしました。ポスターやパンフレットは地域の方々に学校祭の楽しさが伝わりやすいよう、シンプルでカラフルなものを作りました。また前日の準備では、学校正面入り口を風船のアーチで飾り付け、来場者に入りたいと思ってもらえるよう工夫しました。特にパンフレットは好評で、一生懸命作ってよかったと達成感を得ました。宣伝係のみんな協力して学校祭を成功することができてよかったです。次の学年にしっかり引継ぎをして来年も協力していきたいです。

スポーツ大会 2016

スポーツ大会実行委員長 2年生 矢野未侑



毎年5月に開催されるスポーツ大会が、今年は11月9日に開催されました。浜田医療センター附属看護学校のスポーツ大会は、クラスの団結を深めるだけでなく他学年や教員との親睦を深めることも大切にしています。今年はクラス競技としてバスケットボールとバレーボールとリレーを行い、学年混合でムカデ競争を行いました。学年混合のムカデ競争では他学年とのチーム作りから始まり、教員も含めチーム全員で声を出し、息を合わせ、ゴールを目指して頑張りました。ムカデ競争は全員の足をそろえないと進まないため、どのチームも必死でした。この機に普段は話す機会の少ない先輩や後輩と笑顔で会話している様子も見られ、横の繋がりだけでなく、それぞれの学年が忙しい日々の中で息抜きリフレッシュできた1日になったと思います。このスポーツ大会で培った団結力や関わりは今後の学校生活に活かし、この日を糧に大変なことも乗り越えていこうと思います。





スポーツ大会実行委員 2年生 人見直子

私は、今回初めて浜田医療センター看護学校での大きな行事の運営を実行委員長の方と協力しながら担当しました。スポーツ大会はクラスの団結を高め、また学年全体での交流を深めることを目的に行っています。以前は1年生が入学して一ヵ月ほど経ってから行っていましたが、今回は11月9日に行いました。1年生も学校生活に慣れ、クラスでの活動もたくさんしている中でのスポーツ大会だったので緊張することなく楽しめたのではないかと思います。

スポーツ大会の内容を進めていく上で、スポーツ委員の1年生、3年生と連携し、スムーズに進めることができました。先生方を含め、「みんなが楽しめるスポーツ大会を作りあげたい。」「燃えるような戦いを繰り広げたい。」等、いろいろな思いが詰まったスポーツ大会でした。スポーツをすることを楽しつつ、真剣勝負ができたのではないかと思います。普段はスポーツを通して団結力を高めたり、他学年と交流をしたりということは少ないのでとても貴重な行事だったと思います。何よりみんなからの、「楽しいスポーツ大会を運営してくれてありがとう。」という言葉が嬉しく、とてもやりがいを感じました。



模擬患者演習 64 期生

学科主任 隈部直子



模擬患者演習は、1年生が生活援助技術演習（1単位 45時間）の中で、最後に行う技術演習です。それまでに身につけた全身清拭の技術と、フィジカルアセスメントの中で学習したバイタルサイン測定の技術を合わせて、シルバー人材センターより派遣された模擬患者に行うという演習になります。今年度は、対象の自立度に応じた援助計画の立案と相手の思いを尊重した看護技術を提供することを目指した演習を計画しました。演習は、平成28年12月12日と19日の2回に分けて行いました。1回目に模擬患者とコミュニケーションをとり対象の生活背景や自立度に関する情報を集め、それに応じた援助計画を立案し、学生同士で練習をしてから2回目に模擬患者に援助を実施するという内容です。模擬患者を務める8名のシルバー人材センターの会員さんと学生、そして指導にあたる教員が皆で取り組み、非常に実りある演習になりました。今回は、学生、模擬患者それぞれの立場から演習を通して得られた学びや感想を書いてもらいましたのでご紹介したいと思います。



模擬患者演習を終えて

1年生 浅津幸奈

今回の模擬患者演習では、今まで私達が授業や実習を通して身に付けてきた知識・技術を、初めて学生以外の地域の高齢者の方々に実践させていただきました。

演習日までの間、模擬患者さんとの交流で情報収集をし、患者設定と模擬患者さんの身体機能に合わせた援助がスムーズに行えるよう、学生同士グループで何度も話し合いながら練習を重ね、援助計画を作成しました。しかし、演習当日いざ実践してみると、これまで練習してきた学生と模擬患者さんとは身体の可動域などにも差があり、練習通りの援助は上手くできず、模擬患者さんの表情を読みとって、いい援助が行えたものも行えなかったものがはっきりとわかる結果となりました。事前にしっかりと立てたつもりだった援助計画も、演習後のまとめでは、見直す点がいくつか出てきました。

その中の1つとして、いかに患者さんの負担を少なく、看護師の作業動線を考えて援助を行うことができるかどうかです。私たちのグループは、担当の模擬患者さんが年齢の割には、とても活動的な方だったので、入院生活で体の筋力が衰えないように、患者さんの筋力を使いながら援助をするという計画を立てていました。でも実際は患者さんに無理して動いてもらうような場面が多く、表情に苦痛があらわれていたので、いくら活動的な方だとはいっても、年齢に応じた援助を提供しなければならないことがわかりました。患者さんは、看護師に遠慮してしまうことも多いと思うので、表情から気持ちを読みとりいち早く気づくことが大切だと思いました。また、今回の実践で、高齢者は特に持病に加えて身体機能が人それぞれで大きく異なるので、個々にあった看護を行うことの重要性を学びました。

事前に立てた援助計画は、実践の場において参考にはできますが、実際に援助を行うとなると患者さんの状態によって行えることが変わるので、一月末から始まる実習ではこの模擬患者演習での学びを活かすとともに、状況に応じた看護ができるように、今まで学んだことについてさらに知識をつけ、臨みたいと思います。



雑 感

シルバー人材センター 門脇吉郎

師走もおしせまり、あわただしい毎日を送っております。先日 12 日シルバー人材センターより要請があり 8 名の会員が模擬患者として指名を受け派遣され、浜田医療センター附属看護学校に伺いました。各グループ 8 ヶ所に分かれ、リラックスムードで、自己紹介・出身・趣味など語り合い学生さんとの絆がより深くなりました。私も以前厚生委員に 20 数年関わってきたので色々な話ことができました。また、本番 19 日は 13 時半より、隈部先生の挨拶の後、各グループに分かれ、担当の先生の下、学生さんの演習が始まり、熱・脈・血圧の測定・身体拭き・着せ替えなど緊張の連続で、受ける私達にも緊張感が伝わってきました。終了後はやりとげたという感じでリラックスムードでした。演習後全員一同が集い、良かった点もうすこしこうすればよかったのではないかと反省点を指摘されておられました。1 日も早く一人前となり社会に貢献できる看護師になれることを祈念いたします。ありがとうございました。



ナーシングセレモニー2016

1年生担任 崎本美子



このセレモニーは、来賓・学校職員・在校生をお迎えし、看護への道を目指す決意を「誓う」ものです。セレモニーの準備をするにあたり、学生は入学してからの自分自身の気持ちを振り返り、看護について意識して考えてみる時間となります。そしてろうソクの中で誓う看護への言葉は神聖な様子に映り、学生は継続して行いたいと思う儀式です。そして、セレモニーで頂いた言葉の温かさと重みに、この道を目指してよかったと思えるものだからです。当校のセレモニーは64年間継続している「継火（つぎひ）」というもので、看護の先輩から後輩へ看護の思いを続けていく意味があります。今回は当校の卒業生にその意図を話してもらい、セレモニーへのぞんでももらいました。その意味を学生は汲み取り、今回のセレモニーへ向かいました。暗闇の中で学生一人ひとりのもつろうソクの明かりのように「患者さんにとって希望を与えられる看護師になりたい」と64期生は誓いました。誓いの言葉は37名の声ですが、まとまりがあり、当日はとても綺麗に響いていました。

6月に2泊3日の宿泊研修の企画運営、そしてナーシングセレモニー。当校はすべて学生達で企画・運営していきます。最初はどうかと思いましたが、最後は意味のあるセレモニーになりました。学生はそれぞれ能力をもっています。1年生の今後の成長を期待します。



ナーシングセレモニーは、学生が企画から運営を取り仕切って行ないます。64期生が入学してから8ヶ月今まで育てていただいた方々の前で、どのような気持ちを持ち、これからの看護の道を目指すかを考えることからはじめました。ナーシングセレモニーの企画運営を行なった各担当のリーダーに式を終えた気持ちを振り返ってもらいました。



誓いの言葉

1年生 桑原綺

誓いの言葉はナーシングセレモニーの中でも一番の見せ場で、その言葉を決めるということに不安を感じていました。また、その中でもリーダーを任されていたので責任を感じました。しかし活動はじめて、系のメンバーだけでなく同期 64 期生の仲間、先輩方や先生などたくさんの支えがあることに気付きました。そのたくさんの支えの中で誓いの言葉を決めることができました。話し合いであがった 64 期生の目指す看護師像を取り入れた「誓いの言葉」になったと思います。これから、実習に出た時や働きはじめて何かの壁にぶつかった時、誓いの言葉を思い出して、歩きはじめられたらと思います。



誓いの言葉



私たち 64 期生は患者に希望を与えられる看護師になります。

そのために、患者や家族の心に寄り添い、思いやりをもって接します。

1人1人に合った個別性のある看護を提供します。

患者の人生に携わる職であることを自覚し、自分の行動に責任を持ちます。

優しさを持ち、笑顔で接することで、患者に安心感を与えます。

看護師として、患者が療養生活の中で充実感を得られるように関わります。

日々の学びで看護に必要な知識や技術はもちろん、

看護師としての人間性を養います。

私たちを支えてくださる周囲の人に感謝の気持ちを持ちます。

同じ夢を持つ仲間と共に、それぞれが理想とする看護師を目指します。

以上のことを誓います。

案内・お礼状

1年生 静間翔己

ナーシングセレモニーの企画の中で、一番早くから仕事に取り掛かり一番最後の締めくくりを担当します。案内状の配布と、出欠席の返信の時期など予定を立てることが非常に重要で、進行系の会場セッティングや、しおり系の役割にも影響します。案内状やお礼状を出す時は病院の方達に直接会うことができます。「がんばってね」「いい式だったよ」など声をかけて頂いた時は「これから頑張ろう」と思えてきます。大変なことが多かったですが、その分得るものも大きく、よい経験になりました。



BGMの選曲

1年生 小松礼奈

登壇、降壇の曲は式の雰囲気をつくる重要な部分で、初めはメンバーのみんなとすごく悩みました。しかし、テーマが“希望”と決まり、自分たちらしい曲にしようと“未来”という言葉や“愛”という言葉が入ったディズニーの「輝く未来」「愛を信じて」にし、本番でもいい式にすることができました。この式を自分達でつくることで、64期生全員の団結力が深まったし、先生方や先輩方の協力があったからだと思います。保護者や医療センターの方々の前で誓った言葉の通り、自分達を支えてくださる方々に感謝の気持ちを忘れずに、これからも自分の理想の看護師になれるよう頑張ります。



セレモニーの進行

1年生 北浦梢

「自分がこのような大きな式の全体をまとめる係のリーダーになって本当に大丈夫なのか」「全体をまとめていい式になるだろうか」と最初はとても不安が大きかったです。でも、同じ係の人達が協力的で助かりました。練習で人に指示を出すことがうまくできず、みんなに迷惑をかけた所もありましたが、私の指示を聞き動いてくれました。そして誓いの言葉は何回も練習して言葉を合わせることを頑張りました。分からないことは先輩が教えてくださり、当日の式も手伝っていただきました。この式を通してたくさんの人への感謝の気持ちを持ちました。



しおりの作成

1年生 野村夏生

私達7名は、ナーシングセレモニーの約1ヶ月前から計画を立て、行動していきました。1人ひとりの役割を明確にし分担することで、スムーズに作業することができました。また、しおりを作成する時には他の係が手伝いに来てくれて、早く終わることができました。その残りの時間を会場準備や練習に当てることができました。この式を通してすべての係が助け合い、連携をとることの大切さを学びました。これからも、看護師になるという同じ目標のもと、助け合い、競い合いながら過ごしていきたいです。



物品の準備

1年生 前森陽二郎

ナーシングセレモニーに必要な物品の準備や、スムーズにセレモニーが進行するよう2・3年生に協力を依頼していきました。セレモニーにあたって、一番大事なのはろうソクの準備です。セレモニーの2日前までは順調に準備していましたが、直前になって物品の数が少なかったり、見つからなかったりとバタバタしました。しかし、皆の協力でなんとか準備することができました。当日、とてもいいナーシングセレモニーを行えたのは、64期生の仲間達、先輩方、先生方が協力して下さったからです。また当日に来ていただいた、出身高校の先生方、御父兄の方々、医療センターの職員の皆様、御出席下さりありがとうございました。64期生で誓った「理想の看護師」になれるよう頑張っていきます。



高砂ケアセンター文化祭への ボランティア参加

1年生 北浦梢



私が、高砂ケアセンターにボランティアで文化祭に参加させてもらったのは、高校生の時を含めて今回で2回目でした。祖父が、高砂ケアセンターでお世話になっていることもあり施設には馴染みもあるので、積極的に参加できました。その為か、声をかけてくださる職員さんも多く、嬉しかったです。祖父もいつもこのような気持ちで過ごしているのかと感じました。又ボランティアを通して感じたことは、職員の方々がとても明るく優しく来場者の方々や入居者の方に接しておられました。来場者の方々は、楽しそうに「わあ～〇〇さんを見て元気になったわ～」と笑顔で話をされていました。そんな場面に接して私達も元気を貰えました。文化祭に参加させて頂きありがとうございました。また、機会があればぜひ参加したいと思いました。



1年生 小松玲奈

私は、高齢者の方と関わる機会が少なく、会話をすることがあまりありません。今回の高砂ケアセンターのボランティアに参加させて頂き、多くの高齢者の方々と関わりとても良い普段できない経験ができました。自分の意思を伝えることが難しい高齢者の方の言いたいことを理解することは難しいと感じました。目の前で、職員の方がスムーズにやり取りをされている場面を見て、やはりコミュニケーションはとても重要だと感じました。文化祭には小さい子から高齢者の幅広い年齢層の方々が来場し、その方々と多くの話をしてコミュニケーションを図り、色々学ぶ事があり自分にとってとても貴重な良い経験ができました。この経験を生かしてこれからも、学校生活を頑張っていきたいです。文化祭に参加させて頂きありがとうございました。



第106回看護師国家試験 に向けて



3年生担任 畑中美保

平成29年2月19日（日）に、看護師国家試験が行われます。看護師国家試験は、1日かけての試験となります。また、合格基準として、『必修問題』という基本的な知識を問われる問題は、50問中40問（80%）以上正答することが絶対基準となります。ほかに『一般問題』という看護に必要な知識を問われる問題があります。また、患者の状況説明文をもとにどのような対応・看護を行っていくかを問われる『状況設定問題』があります。一般問題と状況設定問題については、年度により合格基準の変動がありますが、近年の傾向では65%前後が合格ラインとなっています。

3年生のクラス運営では、年が明けた1月からは国家試験に向けて集中できるような学習環境を整えてきました。国家試験に向けての学習は年間を通して模擬試験を実施し、繰り返し学習を重ねて来ました。学生からは、臨地実習で受け持たせていただいた患者さんの状況を思い浮かべながら理解が深まったという意見も多く聞かれました。

日々学習していく中で緊張や不安を感じる学生もいましたが、地域の方々や、これまで関わってくださった教職員・病院職員の方々からたくさんの温かい激励を頂きました。学生は多くの方々に支えられていることに喜びを感じ、やる気にも繋がったようです。

残りわずかとなりましたが、看護師国家試験、全員合格に向けて教職員一同、学生達を支えていきたいと思えます。ご支援よろしくお願ひいたします。

今後の予定

- | | |
|-------|-------------------|
| 2月19日 | 第106回 看護師国家試験 |
| 3月3日 | 第62回 卒業式 |
| 3月17日 | 終業式 |
| 3月27日 | 第106回 看護師国家試験合格発表 |



編集
後記

3年生は国家試験まであと1ヶ月をきりました。全員合格できるよう必死に勉強しています。インフルエンザが流行っているので感染しないように、手洗い・うがい・マスク等の着用をして万全の体制で試験にのぞんで、いい結果をだせるようがんばってもらいたいです。最近一段と寒くなってきたので、なるべく部屋などを暖かくしたりして、体調管理をしながらお過ごしください。

アクセス



- 山陰本線浜田駅より徒歩 3 分
- 広島駅から浜田道高速バスで約 1 時間 50 分
 - 山口方面から
新山口－（山陽本線）－益田－（山陰本線）－浜田
 - 松江方面から
松江－（山陰本線）－浜田 特急 約 1 時間 40 分

